

令和5年度

少年の主張 島根県大会報告書

第52回
島根県少年
弁論大会



中学生の今の言葉で伝えたいことがあります

日 令和5年
時 9月28日(木) 10:30~15:30

場 江津市総合市民センター
所 (ミルキーウェイホール)

主催／青少年育成島根県民会議、島根県中学校長会（主管：江津市中学校長会）、
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
共催／江津市教育委員会
後援／島根県、島根県教育委員会、島根県警察本部、江津市、江津市青少年健全育成協議会、
島根県PTA連合会、江津市PTA連合会



はじめに

令和5年度「少年の主張島根県大会」の開催にあたり、主催者を代表し、一言ご挨拶申し上げます。

はじめに、県内各地区から選出された、16名の発表者の皆さん、おめでとうございます。また、お忙しい中、来賓の皆様、審査委員の皆様、本大会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

コロナ禍の3年間、本大会は、動画審査での開催となっておりますが、今年は4年ぶりに、ここ、江津市で、聴衆の皆さんにもご来場いただく形で開催することになり、大変うれしく思っております。開催にあたり、ご尽力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

また、島根県ケーブルビジョン協議会のご協力により県内のケーブルテレビ各局で放送していただきます。県民の多くの皆さんに「少年の主張」をお届けできることでしょうか。

さて、「少年の主張」は県内中学生による、意見発表の場として開催しており、社会や世界への意見や未来への希望、家庭や学校生活、地域活動、友達とのかかわりなど、幅広い意見表明の場となっております。

今年の4月1日に施行された「こども基本法」は、「すべてのこどもが幸せな生活を送ることができる社会」を目指して、社会全体でこどもに関する取組「こども施策」を進めるためにつくられました。この「こども施策」で大切にされている考えのひとつに、「すべてのこどもが、自分に直接関係することに意見を言えたり、さまざまな活動に参加できる」というものがあります。中学生の皆さんには、広い視野と柔軟な発想や創造力などと共に、物事を論理的に考える力や、自らの主張を正しく伝え、理解してもらう力などを身に付けることが、一層期待されます。「少年の主張島根県大会」は、これらの契機となることを願い実施するものです。

この大会に参加いただいた大人の皆さんには、中学生たちの発表を受け止めていただき、すべてのこどもや若者が、幸せに暮らせる社会の実現に向けた取り組みについて、考えていただけたらと思います。

それでは、発表者の皆さん、力をいっぱい、自分の思いを主張してください。楽しみにしています。

令和5年11月

青少年育成島根県民会議
会長 高橋 憲二

目次

はじめに

大会風景..... 2

審査結果表..... 4

発表作品..... 5

開催要項.....21

審査委員・来賓.....22

地区大会概要一覧.....23

全国大会出場者・審査結果.....24

全国大会「内閣総理大臣賞」受賞作品.....25

あとがき

大会風景



開会式



青少年育成島根県民会議会長挨拶 (代読 副会長)



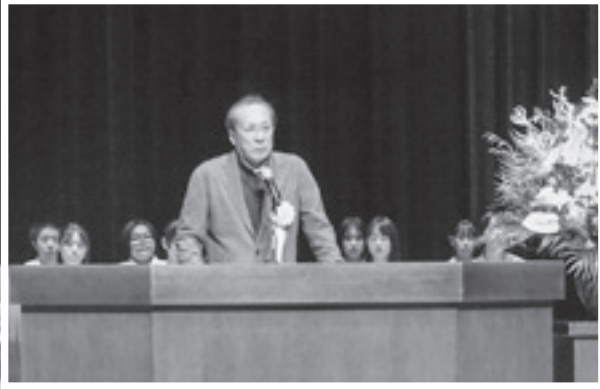
島根県知事祝辞 (代読 浜田児童相談所長)



江津市長祝辞



集合写真



審査結果発表及び講評



島根県知事賞授与



島根県教育委員会教育長賞授与



島根県警察本部長賞授与



青少年育成島根県民会議会長賞授与



審査委員特別賞授与



審査委員特別賞授与



島根県中学校長会長挨拶

令和5年度（第52回）「少年の主張島根県大会」審査結果表

賞名	演題 (テーマ)	地区	学校名	学年	ふりがな 氏名
島根県知事賞	誰かの「自分らしさ」を支えるために (生き方)	雲南	雲南市立木次中学校	3	たかほし 高橋りりあ
島根県教育委員会 教育長賞	?(え)を!(あ)に 変える私の工夫 (自己理解の大切さ)	隠岐	知夫村立知夫中学校	2	しみず 清水ひまり
島根県 警察本部長賞	熱くなれ!私 (地域・社会)	仁多	奥出雲町立横田中学校	3	やすかわ ゆづき 安川 結月
青少年育成島根 県民会議会長賞	私の存在証明 (生き方)	飯石	飯南町立赤来中学校	3	さわだ こうめい 澤田 煌明
審査委員特別賞	あなたの「好き」も 教えてください! (相互理解)	松江	島根大学教育学部 附属義務教育学校	8	かたおか むつみ 片岡 睦深
〃	伝える勇気、伝わる思い (生き方)	安来	安来市立伯太中学校	1	とがせ ももの 梅瀬 桃乃
優 秀 賞	変わらないもの (地域社会)	江津	江津市立桜江中学校	2	ますもと いつき 升本 樹希
〃	取り扱い注意中 (家族との関わり)	出雲	出雲市立湖陵中学校	2	まにわき あら 馬庭絆有來
〃	歌がもつ力 (生きる力)	松江	松江市立第四中学校	3	やまもと ふるか 山本 楓花
〃	八文字で伝える気持ち (家族)	出雲	出雲市立平田中学校	3	えのきだに ひな 榎谷 陽菜
〃	どう思う?どうしたい? (自己改革)	益田	益田市立小野中学校	3	さいとう くれは 斎藤 来羽
〃	思いやりのある会話 (社会福祉)	浜田	浜田市立金城中学校	2	はなだ まなみ 花田 愛実
〃	主人公 (どう生きるか)	鹿足	吉賀町立六日市中学校	3	ながふじ いおり 長藤 伊織
〃	応援の力 (人とのかかわり)	邑智	邑南町立石見中学校	2	みうら めい 三浦 萌衣
〃	当たり前前にありがとう (感謝の気持ち)	江津	江津市立江東中学校	3	あべ まなみ 安部 愛美
〃	一つの灯火 (反戦・生命)	大田	大田市立大田西中学校	1	つじ このみ 辻 瑚乃美

※ 審査委員特別賞、優秀賞については、発表順に記載しています。



島根県知事賞

誰かの「自分らしさ」を支えるために

雲南市立木次中学校
3年 高橋 りりあ

「かわいそう」と私が何気なく発している言葉は本当にその人の心に寄り添っているのだろうか。ヘアドネーションについて知るうちに私の中に疑問が生まれました。

小学3年生の秋、私は、科学作品展の展示物でヘアドネーションを知りました。ヘアドネーションとは、病気や事故などによって髪を失った子ども達のために寄付された髪の毛を使ってウィッグを作成し、無償で提供する活動のことです。ウィッグが必要な子ども達がいると聞いたとき、まず私は、髪がなくて「かわいそう」だから、協力したい、協力することで、みんなが幸せになると考えました。切ってしまったらゴミでしかない髪の毛が、知らない誰かを笑顔に出来るプレゼントになるのです。そこで、3年かけて、ヘアドネーションの規定である31センチ以上に伸ばした髪を、小学校卒業を機に切って、ウィッグを作成している団体へ送りました。その時は、大切に伸ばしてきた髪の毛がやっと誰かのためになる、人のために行動ができたという、うれしさと達成感に包まれました。

しかし、同時に、なぜウィッグを被るのだろうかという思いもありました。ヘアドネーションについてさらに調べるうちに、病気や事故などによって髪を失うことは誰にでも起こりうることだと知りました。もし、私が同じ立場になったら、どのように接してほしいだろうか。そう考えて初めて「かわいそう」という言葉は、なんだか他人事で自分たちとは違う存在と言われているような心がチクとする言葉だと感じました。また、「髪はあるほうがいい」という考えが前提にあるこの言葉は、髪を失った自分自身を否定されているようにも感じると思いました。「周りと違ってかわいそうと思われたくない」その気持ちから私だったら、ウィッグを被ることを選択します。私が、何気なく思っていた「かわいそう」という言葉は、自分が当事者であればかけてほしくない言葉だったのです。

私は、ヘアドネーションに取り組んだことで、心の根っこに「人と違うことは恥ずかしいことだ、人と同じであるのがよいことだ」という思い込みがあったことに気づくことができました。ウィッグを被っている人の中には、周りの人から「かわいそうな存在」「自分たちとは違う」そう思われたくないという気持ちから被っている人もいるのではないかと、もしかしたらヘアドネーションが必要とされる背景には、社会の中に「周りと同じにしなければならない」という雰囲気があるのかもしれないと考えました。もし周りとは違う立場になった時に、周りに合わせる努力をしなければ生活しにくかったら、悲しく生きづらと思います。ウィッグを被りたくない人は人の目を気にせず、ありのままにいられて、ウィッグを被っていた方が自分らしく過ごせる人はウィッグを被る。ヘアドネーションは、周りに合わせるためではなく、自分らしさを支えるためのものであってほしいと思います。

私は今、2回目のヘアドネーションに向けて髪を大切に伸ばしています。誰かを笑顔にしたいという気持ちは小学生のころから変わっていません。しかし、昔のように「かわいそうだから」ではありません。「誰かの自分らしさを支えたい」という思いで伸ばし、規定の31センチを超えました。31センチの髪の毛は、ショートヘアのウィッグになるそうです。そこで、次はロングヘアのウィッグが届けられるよう、高校卒業まで伸ばそうと決めました。

ヘアドネーションを通して、人には、いろいろな在り方や事情があり、それぞれの人々が、様々な思いを抱いて生きているということを知りました。だから私は、これからもっとたくさんの方のことを学び、相手の思いや背景に目を向け、その人らしさを支えられるようになりたい。そして、誰もが生きやすい社会にしたい。大きな願いではあるけれど、自分にできる小さな一歩から行動していきます。



島根県教育委員会教育長賞

? (え) を ! (あー) に変える私の工夫

知夫村立知夫中学校
2年 清水 ひまり

小学生のころの私は周りとうまくいかなかった。

「なんでこっち来るの?」

「? (え)」

「ひまりの存在する意味がわかんないんだけど。」

そう言われても、何も言い返せなかった。なぜそう言われるのかわからなかった。学校に行くのが恐ろしくなった。

そんなときに私は、自然の中で自由に過ごせる学びの場と出会いました。私はそこで初めて私と同じように、周囲とうまくいかず、生きづらさを抱えている人がいることを知りました。自分だけではないことにほっとしました。学校では誰も話せなくなっていた私にとって、そこが救いの場となりました。

自然の中で、少人数で学べる場所が自分には合っていると思った私は、中学進学を機に、知夫村に島留学することに決めました。きっと今度はうまくいく。わくわくしながら東京から知夫中にやって来ました。しかし、ここでもうまくいきませんでした。どうして友達の輪に入れなくなってしまうのか、考えても考えてもわかりませんでした。このままでは小学校のときと同じになってしまう。悩んだ末、私は勇気を出して友達に聞きました。友達は言いにくそうにしながらも、きちんと言葉にしてくれました。「自分の思ったことをよく分からないまましゃべってるんじゃない? ひまりの思いとは違う風に伝わることもあるよ。誤解されるよ。」

伝わらない? 誤解される?

あーそういうことだったのか! 私の言葉は相手に伝わりにくく、誤解されやすい。私が周囲

とうまくいかない理由を知りました。それからの私は、自分の思いを正確に相手に伝えるための工夫をし始めました。人に何か言うときには、すぐに言葉にせず、頭の中で考える。この言葉で合っているのか? これを言ったら相手はどう思うのか。人の思いをくみ取ることが苦手な私は、相手の表情をしっかりと見る。「?」という顔をしたら、言い直して「!」になるまで言葉を探す。こんなことしなくても、普通にしゃべれば伝わるのが当たり前だと思われるかもしれませんが、私にはこの工夫が必要なのです。正直、疲れます。へとへとです。何となく過ごしても、周りの人とうまくいく友達がうらやましくて落ち込むこともあります。パニックになってしまうこともあります。けど私は、逃げない。

「ひまり、変わったよね。」

友達のこの一言が、心の底から嬉しかった。私の思いが伝わり始めています。友達と関わる中で、私は今、自分を少しずつ知り始めています。

今、生きづらさを抱えている人はいませんか?

自分を知ることから始めませんか?

そうすれば、あなたの日常が少し楽になるかもしれませんよ。

私は将来、生きづらさを抱えている子供たちの学びをサポートする仕事をしたいと考えています。私はこれからもいろんなところにぶつかり、傷つき、落ち込むこともあるでしょう。しかし、今私がしている「?」を「!」に変える工夫が誰かの役に立つ。そんな日を夢見て、私は今日も立ち上がる。



島根県警察本部長賞

熱くなれ！私

奥出雲町立横田中学校
3年 安川 結月

私が小学校6年生の時、1年生は入って来なくなり「人数が減っていく」という現状を目の当たりにしました。私の母校、鳥上小学校は、来年の3月、廃校になります。

6月、最後の運動会が行われ、久しぶりに母校を訪れました。懐かしい気持ちと、「廃校」になるというまだ実感の湧かない不思議な気持ちを抱えながら、中学生の私達は一緒になって準備を手伝い、競技に参加しました。

高校生からおじいさんおばあさんまで、たくさんの卒業生も見に来ていて、大声援に会場が沸きました。ずっと変わらない、地域みんなが集まる運動会。この温かい風景がなくなるなんて…。最後の玉入れ、最後の綱引き、最後のリレー、最後の…こんなにも全てのものに「最後」がつくなんて…。しだいに、悲しみが、私の心の奥からこみ上げてきました。

でも、小学生のみんなは、「熱くなれ鳥上っ子」のスローガンのもと、悲しさなんて感じさせない真剣な表情でがんばっている。苦手だったはずのことに自分の力で挑戦している。鳥上っ子たちは「自分たちの最大限をやりきろう」としている。ああ、そうか。「熱くなれ鳥上っ子」。これは、私を含め、すべての「鳥上っ子」に向けられた言葉だったのです。

いつでもどこでも声を掛け合えるふるさとの温かさと優しさに、私は15年間育ててもらいました。そのふるさと鳥上から小学校が消えていく。子どもたちの声も、チャイムの音も。仕方ないとはわかっているけど、このまま寂しいだけでは、終わらせたくありません。「熱くなれ鳥上っ子」。今度は、私が、私達が頑張っていく番なのです。

全国で年間約450もの学校が廃校となる中、たくさんの学校が活用されていて、私の母校も一部施設は使われる予定だと知りました。でも

使ってくれる人がいなければ意味がない。そう感じた私は、鳥上小学校の卒業生のみんなと地域の人たちとで、今年の夏、一つのイベントを企画しました。

7月の初めから企画を練り、準備を重ね、いよいよ本番。「いつでも手伝うけんねえ。」不安と焦りを感じる私たちにとって、周りの大人たちの言葉が支えでした。イベントが始まると同時に、地域の小さな子や近所の人が押し寄せ、私たち中学生が考えた肝試しのブースにも長い列ができました。「楽しみにしてきたよ。」と他県から駆けつけてくれた人もいました。みんなの笑顔と、「がんばっちょうねえ。」そんな一言一言がこんなに嬉しく感じられたのは初めてでした。時間はあっという間に過ぎ、最後の打ち上げ花火は今までで一番綺麗で、ずっと私の心に残っています。

「楽しんでもらいたい」思いからスタートしたイベントを通して、地域の良さをもっと感じられた。もっともっと地域の人とのきずなが生まれました。そして、自分たちが声を上げれば、中学生でもできるのだといううれしさは、私の自信になりました。

私たちの声には力がある。その声をつないでくれる人がいれば、笑顔が広がる。そのことを、みんなに知ってほしい。そして、この一步を次につなげたい。失敗してもいい。何年かかってもいい。この取組を少しずつ大きくして、たくさんの人に「知ってもらおう」「来てもらおう」そしてまた「来たいと思ってもらえる」。そんな楽しいことがいっぱい鳥上にしていくことが、私が熱くなって取り組みたい夢になりました。私は私の最大限をやりきるために、挑戦していきます。もっと、もっと、熱くなれ！私。鳥上の未来のために。そして、みんなのふるさとのために。



青少年育成島根県民会議会長賞

私の存在証明

飯南町立赤来中学校
3年 澤田 煌明

初秋の候、本日は私澤田四幸の活弁にお越し下さり、関係者出演者一同に成り変わり厚く厚く御礼申し上げます。この作品はもはやみなみなさまのものでございます。我が子を送り出す気持ちでお届けいたします。この作品みなさまに愛していただけましたら我ら歓喜雀躍身の幸せ本日のみならずこれから上映いたします作品とともによろしく願いいたします。

これは私が職業としている活動写真弁士、通称活弁士です。活弁は、音のない映画に声を吹き込むものです。活弁との出会いは、小学校4年生の頃でした。活弁士が音のない映画に声をつけた途端、心に衝撃が走ったのです。小さい頃、色々なものに声を吹き込んで遊んでいたことを思い出しました。自分の天職のように思え、気持ちより先に行動し、頭を下げて「活弁をさせてください」とお願いをしていました。それから、毎晩、活弁の映像を見て場面の暗記、配役ごとに声色を変える練習を行いました。そして、2ヶ月足らずで初の依頼がありました。僕の晴れ舞台となるその日、とんでもない失態を犯しました。台詞の台本を忘れてしまったのです。どうしようもないまま自分の出番に。無声映画の動きに合わせながら焦って喋っていました。とにかく頭の中に出てくるよりも早く口から言葉をつむいでいました。すると、台詞にとらわれない自由な発言によってか、観客からは大きな拍手が。「今日の公演に来て良かった。君が次世代の長太郎さんだ」と嬉しい言葉もかけてもらい、公演は大成功に終わりました。長太郎さんとは、飯南町の活弁士、吉岡長太郎さんです。その文化を受け継いでいることが誇らしいです。

その矢先、「活弁っていいよな。喋っているだけで褒められて、テレビで注目されて。」と、友だちが笑いながら言ってきました。その言葉に腹が立ち、反論しようとしたのですが、なぜかできませんでした。その頃、「一つのことしか

できないなら、そこをどけよ」と部活動の先輩から言われていたことがフラッシュバックしました。様々な準備が整ったところで自分が喋っているだけ。そう思うと、「俺みたいに得意なことが一つあっても他のことができないやつは、いずれ社会でも通用しない、自分は役に立たない男だ」と自分を責めるようになりました。活弁を誉めてもらう言葉や取材があることが次第に嫌になり、ついには活弁をやめようかと思う時期もありました。

そんな時に転機が訪れました。冬の寒い日にサロンでおこなった活弁は今でも忘れません。その日も僕の気持ちとは裏腹に、活弁は大成功。公演直後に、おじいさんが車椅子を走らせ近づき、言葉をくれました。ただ喋っているだけの私に。「君の活弁には本当に元気をもらったよ。喋っているだけ、それで十分だ。私の気持ちをもらってくれないか」この言葉に私は泣きそうになりました。なぜそこまでしてくださるのか。僕は何もしていないのに。おじいさんは手を握り、「君にはまだ経験することがある。この手で、この話術でこの活弁を多くの人に見せてやりなさい。そうすれば、君を見に来た人たちは素晴らしい経験を得ることができるのだから」と言い残しその場を立ち去られました。私は涙が止まりませんでした。でも、この涙はこれまでと一味違っていました。あのおじいさんの言葉は、私のこれからの未来へ羽ばたくための期待や応援だったような気がします。誇りをもって活弁士を続けるための大きな言葉になりました。

私は、部活動の野球、本気になって取り組んだ英語など思うようにいかない時がたくさんありました。私のように誰にも思い通りにいかず、悩んだり自暴自棄になったりすることがあると思います。今の目標は、活弁士という職に自信をもって、多くの人に活弁を知ってもらうことです。

ご清聴ありがとうございました。



審査委員特別賞

あなたの「好き」も教えてください！

島根大学教育学部附属義務教育学校
8年 片岡 睦深

皆さんの好きな色は何ですか？好きな食べ物は？好きな教科は？その、たくさんの「好き」が、皆さんの自分らしさを作っています。「むっちゃんこれがいい！このランドセルがいい！」

幼稚園年長の私は、水色のランドセルについて大きなりボンに一目ぼれしました。母は、「6年生になっても使うものだよ？大丈夫？」と、別のランドセルにして欲しい様子でしたが、頑固な私に最後には折れてくれました。三姉妹の末っ子で、姉のお下がり定番だった私は、自分だけのランドセルに心を弾ませていました。

しかし、入学して少したった頃、母の心配が的中しました。下校中、後ろから「何であれを選んだと思う？普通選ばないよね。」と何人かの声がしたのです。振り返ると、私のことを見て話していました。あれ、というのは私の大切なランドセルのことでした。泣きながら走って帰りました。

ねだって買ってもらったので母には言えずにいと、一番上の姉が気付いて声をかけてくれました。訳を話すと、姉は「むっちゃん、私のランドセルと交換したい？」と聞いてきました。中1の姉のランドセルは、当時誰も使っていませんでした。ピンクで、小さなハートの飾りがついていて、姉の好きが詰まっています。姉は、「使っても良いけど、好きなものを好きだって、胸を張って使うことも大切だよ」と言い、「お母さんは心配して色々言っていたけど、今のランドセル、むっちゃんらしさが詰まっていて素敵だと思うけどな」と励ましてくれました。

「普通じゃない」という人からの視線におびえ、好きなものを好きだと表現できないことは、誰もが体験したことがあると思います。同じように、「これは普通ではない」や、「こうすることが普通なのに」と、自分の価値観を誰かに押しつけてしまうこともあると思います。

私は、「好きなものは自分らしさの表れ」だ

と思っています。あのとき姉が差し出してくれたピンクのランドセル。それは姉の好きが詰まっていてとても素敵です。けれどそれは私の好きではないのです。私の好きは、そして私らしさは、あの水色のランドセルにだけ、ぎゅっと詰まっているのです。

「好きなものを好きだって、胸を張って使うことも大切だよ。」姉の言葉に勇気もらった私は、「普通ではない」と言われた、自分のランドセルを使い続けることにしました。あれから8年。自分がどう思われるのか気になり口をつぐみそうになる時、陰口が気になり行動できなくなりそうな時、あの姉とのやりとりが背中を押してくれるのです。

そして、大好きなランドセルを使い続けた私は、その人らしさが表れているものを見つけると嬉しくなり、「これは何？どんなところが好きなの？」と、話しかけるようになりました。自分の好きを大切にできたら、誰かの好きも大切にしたいと考えられるのではないのでしょうか。互いの好きや違いを尊重しあえれば、誰もが自分らしく生きられる社会になっていくと思います。

私たち三姉妹が喧嘩をすると祖父はよく「君は君 我は我なり されど仲良き」と言いながら私たちの間に入ってくれていました。武者小路実篤という作家の言葉だそうです。お互いを尊重し合い、その上で仲良くすることをすすめているのです。自分らしく生きて、さらに人とのつながりも大事にしていくことで、生活がより楽しくなっていくのだと思います。誰もが怯えず、様々な価値観のもとで心地よく暮らしていくには、温かなつながりを作る努力もそれぞれに必要です。

小学生の私が聞いた「何であれを選んだと思う？」という声に、今の私なら笑顔で胸を張ってこう答えます。「私の好きが詰まっているからです。あなたの好きも教えてください。そして仲良くしてください。」



審査委員特別賞

伝える勇気、伝わる思い

安来市立伯太中学校

1年 梅瀬 桃乃

本当に大切なものは目には見えない。「星の王子さま」に出てくる言葉です。目には見えないからこそ、大切な事は言葉で伝えないと伝わらないと私は思うのです。

私の話し方に違和感を感じた人はいますか。私は言葉が詰まったり最初の言葉が連続して出たりする吃音障がいです。人によって症状の度合いが違ったり、緊張や環境の変化で症状が出る人もいます。私は普通に話せる時期もあれば、詰まって思うように話せない時期もあります。

吃音は、小学生になる頃にはほとんどの人が治るそうですが、大人になっても百人に一人の割合で見られ、決して珍しい障がいではありません。

カウンセリングや言語訓練などありますが、医学的な治療法は見つかっていません。

私は吃音の事で傷ついたり、辛い思いをしてきました、という話がしたい訳ではありません。

私の様に吃音や見た目では分かりにくい障がいを持っている人には伝える勇気を、その周りの人には伝わる思いがあるということを知ってほしいです。

吃音が出始めたのは小さい頃からで、笑われたり、話し方の真似をされたりすることがありました。自分自身があまり気にしていなかったし、その人が私を傷つけようとして言っていない事はわかるので、いつも笑ってごまかしたり、気にしないようにしていました。しかし伝える事の大切さを知る出来事がありました。

私はバレーボールを始めた時、話していたら気付くだろうし気をつかわれたくないという思いから、指導者さんに吃音のことを伝えませんでした。

6年生になって副キャプテンになりました。試合前に円陣を組んでキャプテンに続いてみんなに声をかけます。「最初の一点大事にするよ。」の言葉が詰まって出ませんでした。円陣を組むたびに詰まるので、指導者さんから「いちいち詰まるな。言うことぐらい考えておけ。」と言われ、それから私が円陣で声をかけることはありませんでした。

悔しくて、悔しくて、「忘れていたわけじゃない。考えていないわけじゃない。詰まらないように何度も何度も練習した。知らないくせに。」と心の中で叫んでいました。「心の中であふれる言葉は、声に出すときと詰まる。」私は何も伝える事ができませんでした。帰りの車の中で、我慢していた言葉が涙となってあふれました。

コーチはとても厳しいけれど、いつも一生懸命教えてくださって、練習の後は最後まで残って私たちを見送ってくれるような人です。だから私の吃音の事は知らないんだということはすぐに分かりました。

吃音の事をきちんと伝えていたらきっと分かってもらえたのに。大切な事はきちんと伝えないと伝わらない。これから先、吃音と付き合っていく私にとって大きな一歩となる出来事でした。

伝える事には勇気がいります。簡単な事ではありません。

それでも、私に伝える勇気をくれるのは友達です。私の事を理解してくれる仲の良い友達も、普段からかったり、口げんかをしたりする男の子も、私が吃音の事で嫌な気持ちになったり、困ったりしていると、「大丈夫？」と声をかけてくれます。みんながかけてくれる言葉は大きな力になります。そして、辛い思い出になるはずの出来事がかけがえのない経験に変わります。

障がいのある人に何と言って声をかけたらいいか、どう接したらよいか迷った事がありますか？その答えは人によって違います。同じ障がいでも求める事は人によって違うけれど、その「大丈夫かな」、「何かできる事はないかな」という言葉は相手に伝わります。そして互いの勇気になります。

私は、伝える思いと伝わる思いの輪が大きくなって、みんなで支え合える社会になることを願います。

私は伝えたいです。いつも私の気持ちに寄り添ってくれてありがとう。



優 秀 賞

変わらないもの

江津市立桜江中学校
2年 升本 樹希

2009年10月に僕は生まれました。沢山の思い出に囲まれ暮らしてきたこの桜江が僕は大好きです。緑豊かな自慢の故郷です。

家の近くに流れている玉川には、祖父と一緒によく遊びにいきました。あみを手で、コイやアユを追いかけて走り回ったり、カニをつかまえたり、1メートルもあるナマズを捕まえたことなんて、思い出だけで興奮してしまいます。玉川を見ると、今でもその時の記憶がよみがえってきて、楽しい気持ちになります。しかしそんな穏やかな川が、姿を変えたこともありました。

2018年7月、2020年7月、2021年8月、たった4年の間に、3回の水害が起きました。いつもは僕のふくらはぎまでしかない穏やかな川の流れが、普段の様子からは考えられない速さになり、あっという間に、田んぼや畑を飲み込み、町を湖のように変えてしまったのです。緑の田んぼが一面に広がる町が、茶色に変わっていました。いつもとは違う川を目のあたりにし、涙が出そうになりました。

その時のことを祖父と祖母に聞きました。「電気、水道が止まって、飲み水、風呂水などにも困ったのよ。交通が遮断されて人を救助するために船が出たよ。大きな水害だったけど地域の方々の早い連絡でみんなが逃げられたんだよ。」「みんなで力を合わせて家に入ってきた土砂や濡れた畳などを出したんだよ。自分のことだけでなく、周りの人のことも考え、みんなで復旧を目指したんだよ。」と聞いていました。

中学に入り桜江の防災について学びました。川の特徴やハザードマップ、洪水に備えるためのダムの働き、人の手で丁寧に点検されている事を知りました。町の復興も、町を守る仕事もみんなで力を合わせて続けてきたことを知りました。

玉川に堤防が作られることになったことを聞いた時は、「これで災害が少なくなり、僕の好

きな町が守られる」と喜びました。

しかし、そう思ったのも束の間でした。「堤防を作るために玉川沿いの家がなくなる」と聞いたのです。僕の祖父の家の納屋も壊されることになりました。祖母は、「昔から仲が良かった人が江津にどんどん引っ越して行って寂しくなった。」と聞いていました。災害から町を守りたい。でも、小さいころから見てきた風景は変わってほしくない。町を守るために、立ち退きがあり、桜江で一緒に暮らしてきた人が町を去っていくのは辛いです。

どんどん変わっていく僕の暮らしてきた町。物心ついた時から走っているのが当たり前だった三江線も、廃線になりました。これから先も変わり続けていくに違いありません。そう思うと、とても悲しい気持ちになります。

でも、変わり続けていくこの町にも、昔から変わらないものがあります。それは、桜江に暮らす人の心です。「おかえりなさい。」「いっちゃん、元気?」「がんばってね。」など、知っている人だけでなく、名前を知らない人から声をかけてもらうこともあります。いろんな世代の人と交流する運動会。地域のおじさんたちに習った今田の神楽。この町に暮らす人たちの優しい心は、今も昔も、全然変わりません。ずっと、僕を優しく見守ってくれています。きっとこれから先も、変わることはないでしょう。

だから、僕もこの優しい気持ちに、大きな声でこたえるようにしています。これまで人々が力を合わせて守ってきた町。受け継いできた人と人との絆。これからは僕も桜江を守る人の一人になります。どんなに風景が変わっても、桜江に暮らす人の心を受け継いでいきたい。繋がりをつづけていきたい。そして今の風景を目に焼き付けて、守って行きたいです。

「こんにちは、いつもありがとうございます。」



優 秀 賞

取り扱い注意中

出雲市立湖陵中学校
2年 馬庭 絆有來

あなたはお父さんが好きですか？

私は、お父さんが「大好き」でした。

私と父は、親子というより仲の良い友達のような関係で、一人っ子の私の最大の遊び相手が父でした。ドライブに出かけたり、モーニングを食べに行ったり、映画を見たり、毎週のように父と二人で出かけていました。小学校卒業くらいまでは、毎晩一緒にゲームをして大騒ぎをしたり、友達が遊びに来ると、野球や鬼ごっこにも参加してくれたり、いつも本気で遊んでくれるのです。私にとって自慢の父で、嫌いと思ったことなんて一度もありませんでした。

そんな私でしたが、中学生になった時、突然父を部屋から追い出しました。同じ部屋で遊ぶことができなくなりました。同じ空間にいると睨んだり「あっち行って！」

「静かにして！」

暴言を吐きまくりました。まさかこの私にやってくるとは思ってもいなかった反抗期がやってきたのです。自分でもびっくりしました。何かきっかけがあったわけでも、父に厳しく注意されたわけでもないのに、父が苦手になりました。同じ空間にいるとイライラしてしまうのです。目を合わせることも嫌になりました。それだけではありません。食事のマナー、歯磨きなど、生活の全部に反応してイライラをぶつけてしまっていました。

なぜかと聞かれてもちゃんと説明もできなくて、ただただ嫌に感じてしまうのです。

今思えば、学校での疲れや、勉強がわからないことのいら立ちも全部父にぶつけてしまっていたと思います。でも、ずっとイライラして無視をしているわけではありません。映画を見に行くのは相変わらず父と二人で出かけるし、習い事の送迎も父がしてくれます。そんな時は同じ空間にいられるし、会話もできるのです。そうです。都合のいい時だけ一緒にいることができるんです。私って相当ひどいことをしている、という自覚もあります。そんな自分にイライラして、明日からはちゃんとしようと思うのですが、また父を傷つ

ける言葉や態度の繰り返しなのです。もう自分でもどうしたらいいのかわからなくて、悲しくなったり、苦しくなったり、怒ったりの毎日です。

でも、今一番泣きたいのは父だと思います。暴言を吐かれても、睨まれても、私を怒鳴ったことは一度もありません。雰囲気を感じて、そっと部屋を出て行ったこともありました。

ある日母から、「お父さんはね、今は「絆有來は取り扱い注意」なんだと思って、反抗期が終わるのを待っていてくれるんだよ。」と聞きました。私は、反抗期を治す薬があればいいのに。と何度も思いました。反抗期が終わる時期がわかれば少しは楽になるのに、来週かもしれないし、数年後かもしれないし、と思うと、先の見通しが立たずため息です。

ただ、一年前よりもイライラは減っていて暴言も減ったなと思います。しかしまだ以前のような親子関係には戻れていません。私は急には無理だけれど、少しずつ努力をするようにしました。

「おはよう」

「行ってらっしゃい」

と言えるように、というか、言うようにしました。これでも、今の私には精一杯の父との会話なのです。母からは毎日のように、「イライラの時こそ口角上げなさい。」

と言われているので、意識するようにしています。

そしてもう一つ、土曜日は父のお弁当を詰める係にもなりました。直接言えないことを手紙にして、お弁当に添えています。たいていはお願い事ですが…。

目標は友達親子に戻ることです。イライラ、モヤモヤとお別れをして、いつか父の顔を見て「あの時はごめんね。」

と、ちゃんと謝りたいです。今は私の相談相手は母ですが、いつかまた父になんでも話せるようになりたいし、父の趣味の釣りにも付き合っ

てあげたいと思います。わがままだけど、お父さん、その時までもうちょっと待っていてね。

取り扱い注意中の娘より



優 秀 賞 歌がもつ力

松江市立第四中学校
3年 山本 楓花

みなさんは、歌を聞くとどんな気持ちになりますか。アップテンポの明るい曲なら楽しい気持ち、悲しい曲調なら切ない気持ち、色々な感情を抱くことがあると思います。ただ、歌を聴いたら感動して涙するという経験が私にはなく、実際に泣いている人を見ても不思議な気持ちでいました。

思い起こすと私の周りには常に歌が溢れていました。父や母は家や車の中で色々な曲を聴かせてくれ、一緒に歌い、家でカラオケをすることもよくありました。小学校2年生の時にプラバ少年少女合唱隊に入隊してからは、歌に触れる機会がますます増え、たくさんの歌を歌い、先生や先輩たちの素敵な歌声を聴いて過ごしました。先生たちの歌を聴いて「すごいな」「上手だな」と思うことはあっても、やはり感動して涙することはありませんでした。

そんな私を変えたのは、6月に行われたバレーボールの松江ブロック大会での出来事です。

常に「この試合が最後かもしれない」という気持ちで挑む中、とうとう最終日の試合が始まりました。初日に負けた中学校との再戦でした。私たちはその相手に、今まで、なかなか勝つことができず、いつも悔しい思いをしてきていたので、「絶対勝ちたい！」という思いでいっぱいでした。試合はフルセットまでもつれ、最後までどちらが勝つかわからない状況でしたが、初日の敗戦の悔しさをバネに見事勝利を収めることができました。

私たちは大きな声で喜び、互いの頑張りを讃えあい、最後には応援席に向かって挨拶をしました。そのとき、スタンドの1年生が私たちに向かって大きな声で、三阪咲さんの『繋げ』という曲を歌ってくれたのです。その曲の中の「あの日何気なく始まった日々がこんなにも大切

に」という歌詞を聞いた時、これまでの色々な思い出が一度によみがえり、私はそのとき初めて歌を聴いて涙を流しました。

私にとって、何気なく始めたバレーボールは、いつしかとても大切なものとなっていました。小学校の最終学年は新型コロナウイルスの拡大のため、大きな大会は中止となり、あまりたくさんの経験もできないまま引退の日を迎えました。その後、中学校の部活動でも思うようなプレーができなかったり、チームの気持ちが一つにまとまらなかったり、色々なことがありました。そんな私にとって、この歌詞は心に響くところがあり、感動して涙が流れたのだと思います。歌の歌詞にはひとつ一つの意味が込められており、その情景と自分の体験が重なった時、さらに、それが素敵なメロディに乗って届いた時、人の心を動かすのだと強く感じました。

私たちが生活するなかで、音楽は人と共にあり続け、私たちを支えてくれる存在です。東日本大震災後には、『花は咲く』や『群青』等の歌が生まれました。私はこれまでこれらの歌を何気なく歌ってきましたが、改めてこの歌詞ひとつ一つを考えながら歌うと色々な風景が心に浮かびます。その風景が人それぞれの思い出と重なり、感動を与え、心を癒し、勇気づけてくれたのだと思います。

私の所属する合唱隊では、10月に演奏会をひかえ、私は「サウンドオブミュージック」の長男の役に選ばれました。初めてのメインキャストです。私は役になりきって、一つ一つの歌詞にこめられた思いを感じながら、聴く人の心をふるわせるような歌を歌いたいです。あのとき後輩達が歌ってくれた『繋げ』のように。



優 秀 賞

八文字で伝える気持ち

出雲市立平田中学校

3年 榎谷 陽菜

「いってらっしゃい。」
みなさんは、言ってもらう方と、言う方、どちらが多いですか？

「言ってもらう方が多い」という人。

では、「言う方が多い」という人。

中学生だったら、

「いってらっしゃい」

と言うよりも

「行ってきます。」

と言って出かけることの方が多くでしょうか。

私は、断然、言う側です。今朝も

「いってらっしゃい。」

と、母を見送りました。朝早くから仕事に行く母は、慌ただしい中でも、にっこり笑って、手を振り返してくれました。

「いってらっしゃい。」

声に出すととても短い八文字の言葉。そこに、「忙しいのに、朝ご飯を作ってくれてありがとう。」
「仕事、頑張ってるね。」

の気持ちを乗せます。

そんなこと、面と向かって言うのは照れくさいから、伝わっているといいな、と思いながら…。短い言葉だけれど、その一言を伝える僅かな時間を、私はとても大切にしています。

私が、こんな風に、家族と過ごす時間を大切にしようになったのは、ほんの些細なことからです。

時計の針は、まもなく夜の7時を指そうというところでした。その日、家にいたのは祖母と私の二人だけ。

「ご飯できたよ。」

という祖母の声に、友達とのラインのやりとりで夢中になっていた私は、

「う～ん…。」

と曖昧な返事をしつつ、ラインを終えられないでいました。

しばらくたって、ふと顔をあげると、7時半になろうとしている時計とともに、一人で晩ご飯を食べる祖母の後ろ姿が目飛び込んできました。

はっとしました。何で気づけなかったんだろう。寂しそうな背中。聞こえるのは、天気予報を淡々と伝えるニュースキャスターの声と、ラインの無機質な着信音。祖母の背中には、いつもより小さく見えました。その瞬間、後から後から後悔が襲ってきました。

慌てて向かった食卓に並べられた、たくさんの料理を見て、私は決めました。

一番近くにいて、一番私を支えてくれている家族との時間を、もっと大切にしよう、と。食事の

時間だけではありません。一日の中で、家族と過ごす時間は、たとえそれが短いとしても、必ずあります。その時間を無駄にしないようにしよう、大切にしよう、と思いました。

そう決めた次の日の晩ご飯は、とてもおいしかった。

何だ、たったそれだけのことか。と思いましたか。

でも、考えてみてください。私が、そしてあなたが、家族と同じ屋根の下で過ごす時間は、後どれだけあるでしょうか。数年後には、進学や就職のために家を出る日がくるかもしれない。

それに、あなたが「いってらっしゃい」と送り出した家族が、「ただいま」と帰ってくるのは、当たり前のことではありません。事故で、災害で…。もしかしたら、今日の「いってらっしゃい」「行ってきます」が、最後の会話になるかもしれないのです。

だから、私は、「いってらっしゃい」を口にする時間を大切にしよう、もう二度と、祖母をあんな寂しい背中にはしないと誓いました。

先日、授業公開日があり、母は仕事を休みました。めずらしく、私が見送られる側です。

「行ってきます。」

と自転車をこぎだす私に、母は

「いってらっしゃい。」

と手を振ります。ちょっと進んだところで振り返ってみると、母は、まだ手を振り続けていました。私の姿が見えなくなるまで、見送ってくれたのだと思います。

母の「いってらっしゃい。」の八文字は、「学校、頑張ってるね。無事に帰ってきてね。」というメッセージと、ぬくもりをくれました。「行っていらっしゃい」。つまり、「行って」そして「帰ってらっしゃい」。私が帰るべき場所で、家族は待っていてくれる。私の大切な居場所。

たった八文字の言葉が、こんなにも私を温めてくれるなら、私からの「いってらっしゃい。」も、きっと伝わっているはず。この、一瞬に思える会話も、大切にすべき、家族との大事な時間なのです。

最近、世の中では、悲しい出来事が後を絶ちません。親が子を、子が親を。

もし、このたった八文字の短い言葉がくれる、短いけれど大事な時間に気づくことができたなら、あのような悲しい出来事は、減っていくかもしれない。そんな簡単なことではないということは、わかっているけれど、そう思わずにいられません。

中学生の私にできることは限られています。

だから私は、明日も、明後日も、その次の日も、

「いってらっしゃい。」

と、そう伝えます。



優 秀 賞

どう思う？ どうしたい？

益田市立小野中学校
3年 齋藤 来羽

「来羽はどう思う？ どうしたい？」
そう母に問いかけられるたび、私は言葉に詰まって、黙り込んでしまいます。本当は、言いたいことが山ほどあるのに、言葉にできません。

自分の意見を言ったらどう思われるかな？ 迷惑をかけてしまうかな？ と考え、言いたいことがあってもためらってしまいます。

いつも言いたい放題の弟たちを見ては、本当、わがまま！ と腹が立ちます。私はこんなにみんなのことを考えているのに、全然思いを言えないのに、いつも我慢しているのに、私ばかり……

言葉を飲み込むことが増え、家族だけではなく、友達にも自分の思いを言えなくなり、言わない方が楽だと思えるようになっていきました。そして、自分がどうしたいのかもわからなくなってしまいました。本当は思いがあるのに言えなくて、苦しくて、思いのまま言える人を見ると、自分なんて……と自信もなくなりました。

それからは、大好きなピアノやバレエでも頑張っているのにうまくいかず、悔しくて、苦しくて……でも先生にも言えなくて、嫌になってしまうことも増えていきました。

悔しい気持ちや苦しさだけでなく、楽しい気持ちや嬉しさもどう表現したらいいのか分からなくなり、そのうち学校に行くのもつらくなってしまいました。

そんな私に母は、
「来羽はどう思う？ どうしたい？」
と問いかけます。

「自分で決めなさい。」

と言われれば言われるほど、どうしたらいいのか分からなくなってしまいます。こんなことを言ったら迷惑をかけてしまうんじゃないか、私が決めたことはみんなを困らせるんじゃないか、いろんなことを考えて、涙が出ます。

そんな自分に腹が立ち、悔しくてたまらなくなって、今までためていた思いを母にぶつけました。

「私がこれをしてほしい。こうして欲しい。こう思うって言ったら、みんなに迷惑かけるでしょ？ 迷惑かけられんよ……」

すると、母は

「迷惑かけん人なんかおらんよ。迷惑をかけたぶん人のことを許せる。お互い様なんよ。」

その言葉を聞いた時に、私はハッとしました。迷惑かけまいと自分ばかり我慢していると思っていた私は、人のことを許せない人間になっていたのかもしれませんが、自分のことも、自分の考えも認められない私は自分自身を信じてあげられなくなって、家族や友達のこと信じられなくなっていたと気づきました。

素直に自分の思いを伝えたり、頼ったりすることは相手を信頼しているから。だからこそ、人に頼られたり、人を助けたりできることは喜びである。でも、それは自分自身を信じていなければできないことだと分かりました。

今、私は自分で決める、ということを中心にしています。小さなことですが、何を食べるのか、何を着るのか、何をしたいのか、自分で決める。それから、まだちょっと怖いけれど、人に頼ること、断られても許すこと、頼られたら協力することにも少しずつ挑戦したいです。普通のことかもしれないけれど、私にはまだまだ難しいことです。でも、自分で決めることの繰り返し、自分を信じることにつながるはずだから。自分を好きでいられるように。素直でいられるように。自分で選んだ道を進んでいけるように。少しずつ挑戦します。

これからも私は問い続けます。

「来羽はどう思う？ どうしたい？」



優 秀 賞

思いやりのある会話

浜田市立金城中学校
2年 花田 愛実

もし、今、この世界の音が聞こえなくなったら…。そんなことを考えてみたことはありますか。

難聴、聴覚障害。これらは、耳が聞こえないあるいは聞こえにくい障害のことです。

私は中学1年の時に病院で難聴と診断されました。今は少しでも聞こえるように、補聴器をつけて生活しています。

しかし、補聴器をつけていても、すべての声や音がきちんと聞こえるわけではありません。

例えば、友達と話している時、周りの音が大きいと相手の声が聞こえないことがあります。話す相手との距離が離れば離れるほど聞こえにくさも大きくなり、遠くから自分の名前を呼ばれても気づけません。時には、家の中で家族に呼ばれていることも分からないことがあります。同じ階にいるときでさえ上手く聞き取れないのです。そんな時は、家族から電話で呼ばれます。「何回も呼んでるでしょ。」「聞こえなかったん。」と注意されることがしょっちゅうです。正直、「聞こえにくいんだからしょうがないでしょ」と腹立たしく思う気持ちもあります。ですが、何度も呼ばせて申し訳ないという思いもあり、モヤモヤした気持ちになります。

さらに、相手と話している時に聞きとれなくて、「もう一回言って」と聞き返すことがあります。そう言うと、相手から「本当に聞いているの」と疑われ、相手をイラつかせてしまいます。

自分がうまく聞きとれないせいで、相手の機嫌を損ねてしまう。それが怖くて、正確に聞きとれなくても適当に相づちをうってしまいます。こうすれば、とりあえず話は分かったような雰囲気を出したり、話を聞いていることをアピールしたりすることはできます。しかし、本当は何を言っているのかが分からないので、「何で言われたことができないの」「これ言われていることと違うじゃん。」と、結局相手を怒らせてしまうのです。

人と話す時以外でも困ることがあり、特に外出したときにはヒヤリとする経験もしました。小さな音が聞こえにくいので、後ろにいる自転車に気付かず、ぶつかりかけたことがあります。また、一車線で歩道と車道の区別がない道では、後ろから車が迫っているかが分からず、自分で

車をよけることができません。いつまでも私が道の端によらないからクラクションを鳴らされることもあります。音を頼りに判断することが難しいので、危険な目に遭うことも多くなりました。

聞こえにくい。それだけで人との会話や普段の生活が難しくなりました。「昔はできていたのに…」「前みたいに音や声をはっきり聞こえたころに戻りたい…」とやりきれなさを感じることも増えました。けれど、周りの人の協力があり、今では会話が楽しいと感じられるようになりました。できるだけ近くで話してくれたり、聞き返してもいやな顔をせずにくり返し話してくれたりします。そのおかげで困ることも少なくなりました。

これから先、みなさんも難聴の方や聴力がおとろえてきたお年寄りの方などと話すことがあると思います。その時は、近くでゆっくりはっきりと話してください。大きな声で話すことも大切ですが、あまりに大声だと補聴器がハウリングして、何を言っているか分からないことがあります。はっきりと言えば、声も聞き取りやすい上に、口の動きで何を言っているかが分かるのです。

実際に、ろう学校の先生に「相手の顔を見ながら口をはっきり動かして話せば、唇の動きと音を頼りに話の内容を聞き取れるよ」と言われたことがあります。そのことを意識してろう学校の生徒と話すと、自分の言いたいことがきちんと伝わって、楽しく会話をすることができました。また、ろう学校の先生方は、生徒と話するとき、声をはっきり聞こえるようにマスクを外して話したり、時には手話を使って伝わりやすくしたりしておられました。

このように話し方や伝え方を少し工夫することで、よりスムーズに会話ができるようになるのです。

補聴器や人工内耳をつけていてもすべての声や音を聞きとれるわけではない、そのことを理解してほしいです。そして、たとえ聞こえにくくても、相手と話したい、楽しく会話がしたいという気持ちをもっています。だから、はっきり話そうという思いやりの気持ちをもって話してくれると嬉しいのです。みんなが気持ちよく、楽しく会話ができるように、相手のことを考えた話し方・伝え方をしてみませんか。



優 秀 賞 主人公

吉賀町立六日市中学校
3年 長藤 伊織

「時間がかかりすぎるやろ。もし間に合わなかったら、3年生に申し訳ないよ。」

今年の2月、3年生を送る会の企画を考える僕に、もう一人の僕がそう言いました。確かに、僕は何をやり遂げるにも時間がかかるのです。自然と、時間がかかるということに、マイナスのイメージを持っていました。

しかし、僕にはやりたいと思っている案がありました。大きな紙に桜をちぎり絵で描きます。桜の花びら一つ一つに、みんなでメッセージを書きます。そして3年生が校舎をまわって帰ってきた最後に、その大きな桜が体育館のステージ上で3年生を迎えるのです。それだけではありません。3年生を送る会の翌日は卒業式当日。大きな桜のちぎり絵を移動させ、校舎の中央階段に、一段一段の高さに切って貼る。下から見上げれば、階段全体が満開の桜の樹になるサプライズです。

悩む僕にもうひとりの僕が更に言います。「階段の高さを測って全体の紙のサイズも計算せないかんよ。」「しかもメッセージが、切る線にかからんように、考えて配置せんと。」「そんなん考えたら、この企画をやりきるには準備に膨大な時間がかかるよ。」「例年と同じ内容なら確実に間に合うし、先輩たちも喜んでくれるって。」

不安でいっぱいにもかかわらず、僕はその声を振り切ることにしました。同級生がいたからです。僕は小学生の時、同級生は一人もいませんでした。いつも一人で決め、やらなくてはなりませんでした。しかし今は一人一人違った力を持った信頼できる22人の同級生がいます。「みんなでやってみよう。」

それからの1か月、目が回りそうなくらいの

忙しさでしたが、たっぷり時間をかけて当日を迎えました。会の中では3年生の笑顔があふれていました。「楽しかった。」と言ってもらえたうれしさは格別でした。そして翌日の卒業式の朝。「うわあ」と言葉にならない驚きと喜びが中央階段下にあふれていました。

「時間をかけるって、悪くないな。」時間がかかることにあったマイナスなイメージが変化していました。今までお世話になった3年生へ思いを込める時間はもちろん、仲間と作っていくその時間そのものが大切だと感じました。

そう思うと腑に落ちることがあります。僕は味噌汁を作る時に鰹節を削って出汁をとります。鰹節をわざわざ削らなくても、美味しい出汁は手軽にとれるし、時短が可能なところです。でも僕は、鰹節を削って出汁をとることに時間をかけたい。削っているときのシュッシュッという音、広がる香り、削るためにかけている時間そのものが僕にとっては幸せなのです。大事なのです。

3年生を送る会での経験は、意志を持ってかけた時間は、自分にとって豊かだと実感させてくれました。「やらされている」とか、「なんとなく」ではもったいないのです。何を選べば正解かなど誰にもわからない。だからこそ、たとえ人から見たら効率が悪いように見えても、自分が大事にしたいことに時間をかけていきたい。時には歯をくいしばってでもかける時間。そうしてかける時間こそが、自分なりの正解を作るのだと僕は信じます。

僕はこれから、覚悟を持って、自分が選び、自分が納得できる時間を過ごしていきます。僕の人生の主人公は僕でありたいから。



優 秀 賞 応援の力

邑南町立石見中学校
2年 三浦 萌衣

応援の持つ力とはどんな力だと思いますか。体育祭などの学校行事や部活などで応援することがあると思います。応援されるとうれしいですよ。ですが、応援する理由とは何だろうと思ったことはありませんか。私もありました。でも、ある出来事があってから応援の持つ力について私なりに気づくことができました。

私が中学2年生になってからの体育での出来事です。私は、小さい頃から体力がなく、運動が苦手でした。そのため体育の授業で行う体力テストがあまり好きではないのです。「今年も去年と同じかな。」とぼんやりと考えていると、「長距離走あるんだって。」と友だちに言われました。私は「最後まで走り切れなかったらどうしよう。」と不安になりました。

そんなことがあって数日後、長距離走をする日になりました。その日は体育の時間になるまでずっと緊張と不安でいっぱいでした。長距離走の番になり、私は「自分のペースで走れば大丈夫。」と何度も自分に言い聞かせました。そして走り始めました。みんなが前へ前へ走る中、私は自分のペースでゆっくりですが前に進みました。そうしないと最後まで走り切れる自信がありませんでした。それでも私が1周走り切る前にみんなは2周目に入っていて、だんだん気が焦ってしまいました。そして、気がつけば呼吸が速くなっていました。それでもゆっくり進んで、ようやく2周目を走り終えました。私が3周目に入る頃にはほとんどの人が走り終えていました。その頃から「もう無理かも」とあきらめそうになっていました。そんな自分が情けなくて何度も泣きそうになりました。

そのとき「めいちゃん！」と私の背後から声が聞こえました。私が振り返るとそこには何人もの友だちがいました。そして、私と走って

れたのです。走っているときもみんなは、「めいちゃん、頑張れ。もう少しだよ。めいちゃんのペースでいいんだよ。」と声をかけてくれました。元気をもらった私は最後の力をふりしぼって走りました。私が走り終えるとみんな私のまわりに駆け寄ってきてくれました。それだけではなく、「お疲れ様。」「よく頑張ったね。」と私に何度も言ってくれました。私はそのとき、とてもうれしかったです。今も昨日のことに鮮明に覚えています。

私はみんなに応援してもらえたから最後まで走り切れたんだと思います。応援がなかったら、きっと途中であきらめていました。みんなが私のことを心の底から思ってくれた言葉だから、私の心に響いたのだと思います。

私が小学校高学年の頃から、新型コロナウイルス感染症の影響で、様々な場面で制限のある生活が続きました。運動会をはじめ日々の授業の中でも大きな声を出す活動はできず、友だちとの距離もとりながらの生活。仕方がないことではありますが、どこか物足りなさや寂しさをみんなが感じていたと思います。2年前に開催されたオリンピックは無観客だったことを思い出しました。今年、テレビをつけるといろいろなスポーツの試合で、マスクを外し、笑顔で、大きな声を出して応援している様子が見られます。きっと頑張る選手たちは、私のように持っている力以上の力を発揮できているのではないのでしょうか。

応援の力は偉大です。人が人を応援することには素晴らしい力があります。私もこれから周りのみんなを応援していける人になりたいです。頑張る人のことを心から思って、頑張る人が笑顔になれる応援をしていきたいです。



優 秀 賞

当たり前にありがとう

江津市立江東中学校
3年 安部 愛美

心に残る一言、誰にでもあると思います。
「誕生日はな、お母さんにありがとうを伝える日なんやで。」

12歳の私の誕生日、お祝いに来てくれた母の友達が私に言った言葉です。

「誕生日をお祝いしてくれてありがとう」、「プレゼントをくれてありがとう」、「ケーキを買ってくれてありがとう」はもちろんです。誕生日の日は、生んでくれたことに感謝して、お母さんにありがとうを伝える日なのだと教えてくれました。生まれてきたことそのものが、当たり前ではなく、感謝すべきことなのだと。私が今、こうして沢山のことを経験しながら楽しい毎日を過ごしているのも母が私を生んでくれたからなのです。

生まれてきてくれてありがとう、産んでくれてありがとう。人は産まれた瞬間から、温かい気持ちの「ありがとう」に包まれます。

当たり前のことですが、感謝の気持ちは生きていくうえで、忘れてはいけない大切な気持ちだと思うのです。

「ありがとう」この一言は、誰が言っても言われても、聞こえてきても、気持ちがうれしくなる言葉です。誰かに何かをしてもらった時、支えてもらった時、助けてもらった時などに自然と出る感謝の言葉は、「ありがとう」です。心の距離が縮まる素敵な言葉だと思います。

「ありがとう」を漢字で書くと、「有る」に「難しい」と書いて「有難う」になります。有ること自体が難しい、めったにない、という意味になるそうです。めずらしいこと、めったにないことの反対は、よくあること。つまり、当たり前にあること。そのことから、「ありがとう。」の反対の言葉は「当たり前」になるそうです。

私達は、毎日、沢山のことを当たり前のようには過ごしています。ご飯が食べられること、学校でみんなと勉強が出来ること、大好きな部活動が出来ること、そばにいてくれる家族がいること。当たり前にある普段の生活は、当たり前ではなく、ありがたいことなのです。自然災害、交通事故など私達の日々の日常はいつ奪われてしま

うかわかりません。コロナウィルスが世界をおびやかしたように突然、ウィルスや細菌感染によって予期せぬ病気にかかり、今当たり前にかけていることができなくなる日がくることもあるかもしれません。今、当たり前で過ごしている日々の中で、関わる人や出来事全てに感謝することが悔いのない人生につながるのだと思います。

SNSを使うことが当たり前になっている今、いつ、どこでも伝えられるという現状に慣れ、伝えないままに言葉や思いに気づきにくくなっています。私たちは自分自身の心と向き合っていて、一つ一つの言葉を大切に伝えるということについて考える必要があるのではないのでしょうか。

私の母は私を育てるために毎日夜遅くまで仕事をしています。忙しい日常の中でも私のちょっとした変化に気がつき、悩んだときには一緒に悩んでくれます。うれしいことがあったときには自分のことのように喜んでくれます。「誕生日はな、お母さんにありがとうを伝える日なんやで。」この言葉を聞いて、母という存在のありがたみに気がつくことができました。

当たり前を当たり前と思うのではなく、当たり前が当たり前でいられることに感謝する気持ちを、私たちは忘れてはいけません。

私は今年で15歳になります。この15年間の間でも何千回、何万回と沢山の人の助けられてきたからこそ、今の自分があると思います。

これからも、きっと今まで以上に助けられることがあるはず。家族へのありがとう。友達へのありがとう。先生へのありがとう。自然豊かな町にありがとう。探せば探すほど私たちの周り、日常にはありがとうがあふれているのです。日々、様々なことに感謝して過ごしていきたいと思っています。中学3年生、義務教育が終わっていく今、感謝することを改めて考え、自分の目指す進路に向けて進んでいきたいと思っています。

今年の誕生日には、毎日、当たり前の様にそばにいて支えてくれる母へ、心からの「ありがとう。」を言葉にして伝えます。



優 秀 賞

一つの灯火

大田市立大田西中学校
1年 辻 瑚乃美

命ってどんなものだろう。一人に一つしかない大切なもの。失われたら二度と取り戻せないもの。それなのに、今世界では、多くの命が失われています。

私は、小学校の修学旅行で、広島平和記念公園に行きました。その時、私の心に深く刻まれたのは、原爆資料館でした。そこで見た光景は、そのときの私にとって恐怖、そして涙があふれてくるような、悲しいものでした。黒く焼けた人、ケロイドの残る体。私は息をのみ、足がすくみ、一步も歩けませんでした。

一緒にいた友達が、私の腕を抱えてくれなかったら、私は最後まで歩くことができなかったと思います。

私は平和公園に行き、平和の大切さを学習したのではなく、戦争の怖さ、悲惨さを学習したのではないかと思いました。なぜそんなことをしなくてはならないんだ。私はその晩15分おきに目が覚めていたことを覚えています。今でも目を閉じると、資料館で見たものが浮かんできます。

しかし、あれから一年近く経ち、気づいたことがあります。私は大事なものを見逃していました。資料館の中には、回復を信じて折り続けた小さな鶴、焼け野原で必死に生き抜いた人々の姿があったのです。

あの時の私にとっては恐怖だったかもしれない。でも、私は怖いものを見に行っただけではありません。私が目を背けていたもの。苦しくても、悲しくても、必死に生き抜いたその生き様こそが、平和学習だったのです。

私が、この平和学習を通して一番に感じたのは、命の尊さです。そして自ら命を絶たないでほしい、ということです。

そんなことは分かっている。どうでもいい。命が大事とは思っていない。もう終わってしまえ。

そう思っている人は、どうしたら変わってくれるのだろう。

平和記念公園に行ったら。昨日まで一緒にい

た人ともう二度と会えなくなったら、大切な人に「生きろ」と言われたら、彼らは変わり、生き続けることができるのだろうか。

生きる理由ができたら、何か目標があったら、生きる希望が生まれるのだろうか。

私は、自ら命を絶つ人が置かれている状況と戦争は、似ているのではないかと思います。

自ら命を絶ってしまう人にとって、SNSや学校、会社など、今生きている場所こそが戦場ではないでしょうか。世の中では、多くの人々がいろいろな場所で戦っています。そして戦争も世界各地で起こります。人は人を簡単に傷つけ、殺してしまうのです。

そんな命って何だろう。私は、命はきっと、私たち一人一人に与えられた小さな灯火ではないかと思っています。大きく燃え上がることもあれば、一瞬にして消えてしまうこともある。

そんな私たちの命の灯火を、いじめや戦争でなくしていいわけがありません。

私の願いは、誰もが一年でも、一日でも長生きしてほしい、少しでも命を灯し続けてほしいことです。戦争やいじめの本当のありさまを、私は知らないかもしれませんが、でも、その人の気持ちを想像し、心に寄り添うことはできると 생각합니다。

原爆資料館で私に寄り添ってくれた友達のように、灯火にはぬくもりがあります。私の小さな行いが、誰かの心を温めることができるなら。灯火は希望の光です。広島で見たように、人々が必死に生きようとする姿から、平和への希望を感じる事ができたなら。

私たちを取り巻く世界は、ほんの少し変わるかもしれません。

皆さんも、命の灯火を燃やしてみませんか。

私も自分にできることを実践し、今日も、明日も、強く願い続けます。

「今日は、悪いニュースがありませんように。世界中の命の灯火が、大切にされますように。」と。

令和5年度 少年の主張島根県大会開催要項 (第52回 島根県少年弁論大会)

- 趣 旨 中学生自らが社会の一員であることを自覚し、責任感に目覚め、健やかに成長することが求められている。この「少年の主張島根県大会」は、明日を担う中学生が日常生活を通じ、日頃考えたり感じたりしたことを広く発表することにより、中学生の自立心を育てる機会とするとともに、視聴する親や大人の青少年健全育成に対する深い理解・関心、協力を求めようとするものである。
- 主 催 青少年育成島根県民会議 島根県中学校長会（主管：江津市中学校長会）
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
- 共 催 江津市教育委員会
- 後 援 島根県 島根県教育委員会 島根県警察本部 江津市
江津市青少年健全育成協議会 島根県PTA連合会 江津市PTA連合会
- 開催日時 令和5年9月28日（木）10：30～15：30
- 開催場所 江津市総合市民センター（ミルキーウェイホール）
〒695-0011 江津市江津町1110-17（電話0855-52-2155）
- 発表者 県内在住の中学生及びそれに相応する学籍又は年齢にある者（国籍は問わないが、日本語で発表できること）で、地区中学校長会長より推薦された者。（地区別の定員は別表のとおり）ただし、県大会開催地区に限り定員より1名追加して推薦することができる。（発表順は別途事務局にて抽選）
※各地区の少年の主張地区大会実施に際して、地区内に特別支援学校・私立中学校がある場合、地区大会事務局はその地区の特別支援学校にも地区大会の案内を送付すること。
- 実施方法 (1)発表時間 5分程度（6分以内を厳守）とする。（400字詰原稿用紙4枚程度）
(2)発表内容 ①社会や世界に向けての意見、未来への希望や提案など。
②家庭、学校生活、社会（地域活動）及び身の回りや友達との関わりなど。
③テレビや新聞などで報道されている社会のさまざまな出来事に対する意見や感想、提言など。

以上、3つの中のいずれかに該当し、心からの思いや考えたこと、感銘を受けたことなどを、中学生らしい自由でユニークな発想で、飾り気のない言葉でまとめたもの。
また、商業的な固有名詞の使用は極力避けるようにする。

(3)発表の様子の全部または一部は報道機関、ケーブルTV等により広報されることがある。
- 審査委員 別に定める。
- 表 彰 審査の結果、次の区分により発表者全員に賞状及び賞品を授与する。

島根県知事賞	1名（県代表）	島根県教育委員会教育長賞	1名
島根県警察本部長賞	1名	青少年育成島根県民会議会長賞	1名
審査委員特別賞	2名	優秀賞	10名
- 発表作品の送料等 送付にかかる費用は主催者が負担する。
- 提出物及び提出先 各地区代表中学校長は、別紙に定める提出物を提出日までに、島根県民会議事務局まで提出する。
【提出先】青少年育成島根県民会議 〒690-8501 松江市殿町1 県庁青少年家庭課内
T E L : 0852-22-6524 F A X : 0852-22-6045
e-mail : nobinobi@shimane-youth.gr.jp
- その他 ・県代表者の発表は中四国ブロック枠で発表原稿、動画で審査され、各ブロック代表者（2名）は、「第45回少年の主張全国大会～わたしの主張2023～」[主催：(独) 国立青少年教育振興機構 令和5年11月12日（日）開催 於：国立オリンピック記念青少年総合センター]に出場する。

審査委員

元山陰中央新報論説委員長（審査委員長）
島根日日新聞社論説委員
島根県警察本部少年女性対策課課長補佐
島根県教育庁浜田教育事務所指導主事
江津市青少年健全育成協議会副会長
江津市教育委員会教育委員
江津市小学校長会長（江津市立高角小学校）

松本 英史 様
前田 幸二 様
上田いずみ 様
永安 裕子 様
井上 和子 様
佐々木勝二 様
舟木 志郎 様

来賓

島根県知事
島根県議会議長
島根県教育委員会教育長
島根県教育委員会委員
島根県教育委員会委員
島根県教育委員会委員
島根県教育委員会委員
島根県教育委員会委員
島根県教育委員会教育監
島根県警察本部長
島根県警察本部少年女性対策課長
島根県浜田児童相談所長
島根県教育庁浜田教育事務所長
島根県江津警察署長
島根県教育研究会会長（松江市立本庄小学校）
島根県PTA連合会会長
江津市長
江津市議会議長
江津市教育委員会教育長
江津市教育委員会教育委員
江津市教育委員会教育委員
江津市教育委員会教育委員
江津市学校教育研究会会長（江津市立津宮小学校）
江津市PTA連合会副会長

丸山 達也 様
園山 繁 様
野津 建二 様
池田眞理香 様
朋澤 公香 様
河上 史子 様
原田 雅史 様
生越 洋子 様
柿本 章 様
中井 淳一 様
岩垣 善保 様
長谷川美穂 様
堀 康弘 様
飯塚 誠司 様
福間 敏之 様
坂手 洋介 様
中村 中 様
藤間 義明 様
田中 利徳 様
福田 市子 様
多田 令子 様
岡田 亮祐 様
土井 伸一 様
平下 智隆 様

令和5年度 「少年の主張島根県大会」 地区大会概要一覧

地区名	学校数	出場枠	地区大会 開催日	地区大会 開催場所
松江	19	2	8月29日(火)	松江市市民活動センター
安来	5	1	8月29日(火)	わかさ会館 (伯太中央交流センター)
出雲	15	2	9月4日(月)	出雲市立大社中学校
雲南	7	1	8月30日(水)	雲南市立木次中学校
飯石	2	1	9月1日(金)	飯南町立頓原中学校
仁多	2	1	8月31日(木)	奥出雲町立仁多中学校
浜田	9	1	8月31日(木)	三隅中央会館
大田	6	1	9月1日(金)	大田市立北三瓶中学校
江津	4	2	9月1日(金)	桜江総合センター
邑智	6	1	9月5日(火)	矢上交流センター
益田	9	1	9月1日(金)	島根県芸術文化センター
鹿足	5	1	8月31日(木)	吉賀町立柿木中学校
隠岐	7	1	9月7日(木)	隠岐島文化会館

* 出場枠：開催地の江津市は1名追加

令和5年度 少年の主張全国大会 審査結果

期日／令和5年11月12日（日） 13時～16時

会場／国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟大ホール

	ブロック	評価結果	都道府県名	学校名	氏名	テーマ
1	中国・四国		島根県	雲南市立木次中学校	高橋 りりあ	誰かの「自分らしさ」を支えるために
2		内閣総理大臣賞	鳥取県	米子市立東山中学校	矢曳 未来	私が歩む夢への道
3	九州		福岡県	苅田町立苅田中学校	福江 日陽莉	未来への第一歩
4			鹿児島県	いちき串木野市立串木野西中学校	箕輪 碧泉	循環型社会に向けての責任
5	北海道・東北	文部科学大臣賞	山形県	酒田市立第一中学校	富樫 蒼汰	大切な家族
6		審査委員長賞	北海道	下川町立下川中学校	三浦 かな	恨みを愛へ
7	関東・甲信越静		長野県	長野県長野盲学校	井出 真奈史	「自立」というかたち
8			神奈川県	横濱中華學院中学部	小林 慈月	「善意のバトン」をつないで
9			茨城県	潮来市立日の出中学校	根本 泰誠	真の友情
10	中部・近畿		京都府	相楽東部広域連合立笠置中学校	アブドゥル フセイン・ナジュマ	おばあちゃんが 教えてくれたこと
11		青少年教育振興機構理事長賞	愛知県	常滑市立常滑中学校	竹内 愛子	ガチャガチャ言っても 始まらないか！
12			富山県	富山市立芝園中学校	吉越 帆高	一人の人間として

※全国大会開催要綱より抜粋 表彰

全国大会出場者全員（12名）に国立青少年教育振興機構理事長より奨励賞、全国大会出場者に選考されなかった都道府県代表者全員（35名）に同理事長より努力賞を贈ります。

私が歩む夢への道

鳥取県 米子市立東山中学校
3年 矢曳 未来

私は障がいを持っている障がい者だ。生まれつきではなく、6年前に交通事故に遭ったことで後遺症が残ってしまったのだ。事故後のショックで歩けなくなった。記憶力が低下した。集中力が続かなくなり、些細なことで疲れて怒りっぽくなった。私はその後遺症を負ったことで、できないことが増えた。生活に関する不自由、勉強に関する不自由、その他色々なことで前の自分のほうが良かったと思う。最近は怒りの気持ちより、悲しみの気持ちが増えたように思う。

私には二つ上の姉がいる。私は今、中学校3年生だから、高校進学を考えたときに真っ先に頭に浮かんだのは姉だった。姉と同じ高校に行きたいと思った。けれど、それはとても難しい選択だと知っていた。私には障がいがあり、姉とは違うからだ。障がいを負ったことで、勉強に集中して取り組むことが難しくなり、できることよりできないことが増えた私に高校進学なんてできるだろうかと考えた。今は自分の体の状態が少しずつわかってきたからこそ言えることだが、私には普通校進学は難しいのだろうと考えている。けれど、前は変わった自分を受け入れられなかった。やれば私はできる。元のように戻れると考えていた。そう思って中学校に通ってきたが、今となってはそれも難しいということを知った。大きくなるにつれ、自分の体がわかってきたからだ。自分を知るというのは、辛いことなのかもしれない。私は、そのことを理解したときから、なんだか体の力が抜けて悲しくなった。私は、もしかしたら小学校から中学校に上がる時、事故に遭う前の自分に戻りたくて、姉と同じ東山中学校を選んだのかもしれない。

そんな理由で選んだ中学校だけど私は今、その選択をして良かった、幸せだと思う。なぜなら中学校に通っていると、先生たちが私を本当

に大切にしてくれているということがわかるからだ。それは、私が今、何よりも欲している気持ちだ。また、中学校に通うことで、同級生と一緒に勉強をすることができた。勉強だけではなく、色々なことに挑戦させてもらえた。委員会活動や応援団に参加することができた。そしてこの3年間を通して、私は全てが全て融通が効くわけではないということも知ることができた。

私は大人になったら、支援学校や支援学級の教師になりたい。中学校の先生達が私を大切にしてくれているように、私も教師になったら、支援学校や支援学級の子供達を大切にしたい。生まれつきの障がいがあったり、体が不自由で普通校には通えなかったりする子供達に「あなた達には居場所がある、一人ではない」ということを知ってもらいたい。そのために私は自分を見つめ、自分にできることを探していきたい。だから私は、高校は養護学校に行きたい。養護学校で自分の可能性を見つけ、自分にできること、誰かの役に立てることを探していきたい。

私は最初からこのような考えを持っていたわけではない。最近になってやっと「できない自分」を受け入れられるようになってきたのだ。小さい頃から頑固で、これだと決めれば、周りの人の言うことなんて聞かなかった。だから事故に遭って同年代の人達より、できないことが増えたということが、ものすごくコンプレックスだった。

けれど、もうそれは過去の話だ。今の私はこうなのだから仕方がない。この考えは、自分ではできないと諦めたのではなく、自分を認めたのだ。私は、私なりの道を歩むことを願う。私は自分の歩幅でゆっくりゆっくり「私の夢」を叶えようと思う。目的地へ時間をかけて進んでゆくカタツムリのように。私の夢はどこまでも続いていく。

あ と が き

令和5年度「少年の主張島根県大会」の報告書をお届けします。今年度の大会は江津市総合市民センターを会場に行われ、県内13地区から選抜された16人の皆さんが出場しました。

コロナ禍での生活の影響からか、ここ数年は自分と家族、友達との関わり、自分自身への問いかけ、悩み、繊細な心の様子を公表された方が多かったように思います。今大会では、行動範囲が少しずつ広がったことにより、周囲との関わりの中で自分らしさを見つけたり、自己肯定感を高めたり、世の中のために役に立ちたいという発表が見受けられました。どの発表者も堂々と発表され、猛練習した姿が目には浮かぶようでした。なかでも県知事賞を受賞された作品は、審査の重要な要素である論旨がしっかりしており、表情豊かに落ち着いて発表する姿が印象的でした。

今大会は4年ぶりの対面開催となりました。中学生の生の声を聞くことができ、大人も含めた聴衆が、それぞれの発表者の主張に対して思いをはせることができました。改めて、人を前にして自分の思いを言葉で伝えたり聴いたりするコミュニケーションの大切さを感じたところです。

この報告書には、県大会で発表された16作品と、全国大会で内閣総理大臣賞を受賞された作品を掲載しています。多くの皆さんに読んでいただき、発表者の思いが一人でも多くの方に伝わり、青少年育成に各分野で活かされることを願っています。

令和5年11月

令和5年度「少年の主張島根県大会」
審査委員長 松本 英史

令和5年度 少年の主張島根県大会報告書

令和5年11月発行

編集 青少年育成島根県民会議

〒690-8501 島根県松江市殿町1番地（県庁青少年家庭課内）

TEL 0852-22-6255 FAX 0852-22-6045

E-mail : nobinobi@shimane-youth.gr.jp



HP



Facebook



Instagram



青少年育成島根県民会議
シンボルマーク